

山口県立萩美術館・浦上記念館

H A G I

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

萩

105

AUTUMN ISSUE
2022

蒐集家

浦上敏朗

の

眼



1.葛飾北斎「風流無くてな<くせ 遠眼鏡」(部分) 享和期(1801~1804)頃 / 2.青花月兔文栗鼠耳角扁壺 朝鮮 朝鮮時代(18~19世紀) / 3.灰陶加彩駱駝 中国 北魏時代(6世紀) / 4.喜多川歌麿「難波屋おきた」(部分) 寛政5年(1793) / 5.青磁象嵌菊花文薬器 朝鮮 高麗時代(12世紀) / 6.葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(部分) 天保2~5年(1831~1834) / 7.藍三彩宝相華文三足盤(部分) 中国 唐時代(8世紀) すべて当館蔵・浦上コレクション

HAGI URAGAMI MUSEUM

浦上コレクションについて

「蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展」に寄せて

浦上満

平成8年(1996)10月、山口県立萩美術館・浦上記念館が開館しました。開館記念展のタイトルは「蒐集家 浦上敏朗の眼—館蔵名品展」で、父・浦上敏朗が平成5年(1993)に山口県に一括寄贈した浮世絵と東洋陶磁など約2,400点の古美術品を中心とした展覧でした。早いもので、あれから26年、四半世紀の年月が経ちました。名誉館長を務めておりました父も、2年前の令和2年(2020)8月15日に94歳で他界しました。奇しくその日は、昭和20年(1945)19歳だった父が、特攻隊として出撃するはずだった日と重なります。「終戦によって命拾いをし、その後75年生き長らえ、働き、家族をつくり、仕事をし、模索し、美術品を蒐め、寄贈して死んでいった」と言ったら、そっけない表現と言われるでしょうか。父にとって命懸けで蒐めたコレクションとは一体どんなものだったのでしょうか。まず父のコレクションは浮世絵と古陶磁に大別されます。浮世絵は江戸時代の人々にとって実に楽しみにあふれたものでした。評判の俳優や美人、日本各地の名所などが木目細かに表現され、老若男女、身分の違いを超えて大人気となりました。父の浮世絵コレクションは有名な作品が多だけでなく、摺りが極めて早く保存状態が優れているものが多くを占めているのが特徴です。浮世絵版画は複数芸術ですから、版木が摩耗する前の彫り線がシャープに出ているもの、摺りも色のグラデーションが見事で奥行きを感じさせる作品が貴重です。江戸時代、商業アートであった浮世絵版画は売れば売れるだけ摺り増ししましたので、初摺と後摺では同じ作品とは思えないほど優劣があり印象も違います。また、そのコレクションは浮世絵の普遍性や資料性にも配慮がされていて美的鑑賞のみならず、歴史を実感しようとする人々の知

的な関心にも応えられるものです。一方、陶磁器は資料的な作品ではなく、キリッとしたものを好む本人の感性が全面に出ているように見えます。中国陶磁は、漢から唐時代の力強い俑の一群、唐三彩の華麗な小品群、宋時代の端正な白磁や青磁、明時代末期の飄々とした絵柄の古染付の皿たち。朝鮮陶磁は、高麗青磁の珠玉の小品群、李朝は大らかな粉青沙器から味わい深い染付などが特筆されます。平成25年(2013)東京・根津美術館で開催された「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展」の図録で西田宏子副館長(当時)は、「厳しくしかも愛情ある眼で選び抜かれた陶磁器の作品たち」と述べておられます。一方で「浦上コレクションには国宝も重要文化財もないじゃないか」という人もいるでしょう。確かにその通りですが、その点について大阪東洋陶磁美術館初代名誉館長の伊藤郁太郎先生は「国宝も重文もない。しかし、一点一点が全てキュートなんです。俗な言い方ですが、小股の切れ上がった、というようなコレクションです。一点一点に見どころがある」と述べておられます(『陶説』723号、日本陶磁協会、平成25年(2013)6月)。東洋陶磁研究の第一人者長谷部学爾先生も「浦上コレクションには、……豪華絢爛とか壮麗秀抜とかいった、大仰なものも全くない。どの作品も、私たちの身边にある陶磁器に似た、ほどほどの大きさで、むしろ愛らしい盃や合子などの小品がま



灰陶加彩駱駝
中国 北魏時代(6世紀) 浦上満氏寄贈

ざっている。そしてどれも形が良く、バランスのとれた文様があらわされており、装飾の過剰を感じさせるものはない。それらは親しみ深い姿で静かに語りかけてくる友達のような感じさえる。このような一見平凡ともいえる陶磁器が、どうしてこれほど美しく、印象深く感じられるのか。大きな声で訴えかけるより、親しみをもって語る静かな声が、人々の心にしみるのである。多くの人々はそれらの品々から、その声をきき、小品の中にかくされた力強さ、平凡にみえるものにひそむ非凡な美しさを、無理なくたやすく発見できるにちがいない。浦上氏の選択はこの点で首尾一貫しており、ほとんど非妥協的である。それは氏のすぐれた見識のあらわれであると私は思う」と開館記念図録に記されています。浮世絵と陶磁器、ジャンルは違ってもその底流にあるものは一人の目筋の良いコレクターが必死になって蒐め

たコレクションといえるかもしれません。

私は浦上敏朗の長男で東京・日本橋で美術商を営んでいますが、父からは一点の美術品ももらっていません。そのことを意外に思う人や訝る人もいますが、本当です。父と私の両者をよく知っておられる国際浮世絵学会名誉会長の小林忠先生は、「浦上敏朗さんが、長年かかって集めた質量豊かな東洋古陶磁と浮世絵版画とをすべて郷里の山口県に寄贈して顧みなかったのだから、驚かされた。その潔さも尋常ではなく、誠に尊い行為と称賛されるが、跡継ぎの浦上満さんにとっては、冷たい親と恨めしく思うところもあっただろうに違いない。日本橋に古美術の名店「浦上蒼穹堂」を営んでいる満さんは、親獅子から深い谷に投げ落とされた子獅子のように、たくましく自力で這い上がって来なければならなかった。しかし



浦上敏朗氏と浦上満氏（『芸術新潮』2013年7月号 p115より転載。©新潮社 芸術新潮 撮影：広瀬達郎）



藍三彩宝相華文三足盤(部分)
中国 唐時代(8世紀) 浦上敏朗氏寄贈

ながらよくしたもので、親子の血は濃く伝わっていて、浦上満さんのコレクション癖もどうしてどうして半端ではない。『北

斎漫画』の大量な収集で、世界中にその名を馳せているのである」と美術雑誌『目の眼』(442号、里文出版、平成25年(2013)7月)誌上で述べておられます。

私が父から初めて「自分のコレクションをすべて寄贈したいが了解してくれるか」と言われた時、当然驚きました。しかし漠然と父のコレクションは私の元に

は来ないのではという気持ちもありましたので、デジャブを感じ、「おやじが好きで集めたものだから、おやじの勝手にすればよい。自分に残してくれなくともよい」と言いました。半分は男としての意地だったかもしれませんが、自分の道は自分で切り開くという当たり前の覚悟もありました。

9月10日(土)から11月13日(日)まで「蒐集家 浦上敏朗の眼」展が26年ぶりに開催されます。開館時の父の年齢に達した私にとっても、懐かしい友達に会いにいくようで楽しみです。

(うらがみ みつる 浦上蒼穹堂代表 / 浦上敏朗氏長男)

蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展

2022
9.10(土) - 11.13(日)

前期 9.10(土) - 10.10(月・祝)

後期 10.12(水) - 11.13(日)

※浮世絵のみ全作品展示替えを行います。

休館日/9月12日(月)、20日(火)、26日(月)、
10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)

開館時間/9:00 - 17:00(入場は16:30まで)

観覧料/一般1,500(1,300)円 学生1,300(1,100)円
70歳以上1,200(1,000)円

[開催中の普通展示もご覧いただけます]

※()は前売りおよび20名以上の団体料金。 ※18歳以下の方と高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。 ※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。 ※前売券は、ローソンチケット(Lコード 63296)、セブンチケットでお求めになれます。 ※割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

主催:浦上敏朗の眼展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)
後援:山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会

葛飾北斎「風流無くてなくせ 遠眼鏡」大判錦絵[前期]
享和期(1801~1804)頃 浦上敏朗氏寄贈

イベントのご案内

記念講演会

「プロの“眼”から見た浦上コレクション」

※聴講無料・要事前申込(先着40名)

【講師】浦上満氏(浦上蒼穹堂代表、浦上敏朗氏長男)

【日時】10月1日(土)13:30~15:00

【会場】本館講座室

ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示解説)

※要観覧券・要事前申込

(浮世絵先着10名、やきもの先着20名)

【日時】会期中の毎週日曜日 11:00~12:00

(浮世絵)9月11日、25日、10月9日、23日、11月6日

(やきもの)9月18日、10月2日、16日、30日、11月13日

【会場】(浮世絵)本館1階展示室

(やきもの)本館2階展示室

申込方法

《電話》0838-24-2400にて、①~④をお知らせください。

①参加希望日 ②参加者全員の氏名
③年齢 ④代表者の日中のご連絡先

《WEB》当館ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染状況によっては、中止・変更となる場合がございます。



《青花月文栗鼠耳角扁壺》
朝鮮 朝鮮時代・18~19世紀 浦上敏朗氏寄贈

展示室1〈浮世絵〉

浮世絵に見る影の表現 —写実と幻想—

【会期】11月19日(土) — 12月18日(日)

風流夕涼三美人 菊川英山
文化11~14年(1814~1817)

“影”という言葉のほんらいの意味は、日・月・星・灯火などの光でした。そこから光が反射して水や鏡に映る物の形、光が遮られて光源の反対側にできる黒い影法師など、光によって生じる形に意味の中心をおくようになると、心に思い浮かぶ人の面影や幻影なども表すようになりました。

浮世絵版画では、18世紀半ばから影絵遊びや影法師などを描いた作品が現れ、19世紀初頭からは、科学的に一貫性のある光と影の表現が美人画や風景画などのあらゆる主題において多数認められるようになります。今回は影を描いた様々な作品をお楽しみください。



展示室2〈東洋陶磁〉

華麗なる色絵磁器

【会期】11月19日(土) — 2023年4月9日(日)

色絵は五彩、赤絵とも呼ばれ、その名前が示す通り赤、緑、黄などの顔料を用いて、色鮮やかな文様が描かれたやきものです。素地が陶器の場合は色絵陶器、素地が磁器の場合は色絵磁器と呼ばれ、いずれも古い歴史を有します。今回ご紹介する色絵磁器は、元時代に中国江西省の景德鎮窯で14世紀ころに生まれました。

色絵磁器は同時代に生まれた青花磁器と併せて、陶磁器の装飾における革命的な技法でしたが、素地となる磁器(白磁)の焼締まる温度では、顔料が定着せず揮発してしまうため、色絵磁器を作るには低火度で余計にもう1回焼成する必要があり、必然的にやきもにかかるコストが増えることになりました。

しかし、その鮮やかさから色絵磁器は発展し続け、特に皇帝への献上品が焼かれた景德鎮官窯では、わずかな筆致の乱れも許されない優品が作られ、明時代の万曆赤絵はその頂点のひとつと評されます。一方、景德鎮民窯で作られた南京赤絵や、福建省の漳州窯で作られた呉州赤絵などは、奔放な絵付けが当時の日本人にも好まれ、多く輸出されました。

本展示では、陶磁史を彩る色鮮やかな色絵磁器の逸品の数々をご紹介します。



五彩龍文壺 中国・景德鎮窯 明時代
万曆在銘(1573~1620年)

茶

室

イワタルリ GLASS × 鉄 × 茶室

【会期】4月2日(土) ~ 2023年3月26日(日)

SCHEDULE 令和4年度(10月~12月)

■ 休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ◆ ギャラリー・トーク ▲ アーティスト・トーク

10

OCT

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	★	●						★	★	★				★		●							●							●	
展示室1	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室2	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室3～6	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力(～12/18)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念(～12/18)																														
特選鑑賞室	葛飾北斎 富嶽三十六景 相洲梅沢左(10/1～10/30)																														
茶室	イワタリ GLASS×鉄×茶室(～2023.3/26)																														

11

NOV

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
	★	★	★	★	★	★	★						●													◆					
展示室1	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室2	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室3～6	蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展(～11/13)																														
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力(～12/18)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念(～12/18)																														
特選鑑賞室	歌川広重「名所江戸百景 浅草田雨西の町詣」(11/1～11/30)																														
茶室	イワタリ GLASS×鉄×茶室(～2023.3/26)																														

12

DEC

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
									◆																						
展示室1	普通展示(浮世絵): 浮世絵に見る影の表現-写実と幻想(～12/18)																														
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 華麗なる色絵磁器(～2023.4/9)																														
展示室3～6																															
展示室7	普通展示(陶芸): 陶-創造の逸脱力(～12/18)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 止原理美展 現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞記念(～12/18)																														
特選鑑賞室	葛飾北斎「富嶽三十六景 礪川雪ノ旦」(12/1～12/18)																														
茶室	イワタリ GLASS×鉄×茶室(～2023.3/26)																														

★ イベント

記念講演会(聴講無料)

【日時】10月1日(土) 13:30～15:00
 【演題】「プロの“眼”から見た浦上コレクション」
 【講師】浦上満氏(浦上蒼穹堂代表、浦上敬朗氏長男)
 【会場】本館講座室
 【定員】40名(要事前予約・申込先着順)

月夜のナイトミュージアム

①ミュージアム・ライトアップ
 【日時】10月8日(土)～10月10日(月・祝) 18:00～21:00
 ②開館延長
 【日時】10月8日(土)、9日(日) 9:00～19:00(最終入場18:30)
 ③竜王太鼓保存会による和太鼓演奏(予約不要)
 【日時】10月8日(土) 18:30～19:00
 【会場】玄関前広場
 ④止原理美氏のワークショップと作品解説(要事前予約・要観覧券)
 【日時】10月9日(日) ワークショップ ①13:00～14:00
 ②15:00～16:00
 作品解説 17:00～17:30

※メンバーズクラブ会員は9月19日(月・祝)、一般は9月24日(土)両日ともWEB9:00、電話10:00から申込受付開始

開館記念日

【日時】10月14日(金)
 【内容】日頃の感謝を込めて普通展示を入場無料、さらに来館者にオリジナルデザイン缶バッジをプレゼント

教育・文化週間

【日時】11月1日(火)～11月7日(月)
 【内容】①普通展示の観覧無料

【内容】②「名品からの挑戦状!浮世絵まちがいさがし」まちがいさがしに参加、正解された方に美術館オリジナルグッズをプレゼント(なくなり次第終了)

ミュージアムコンサート(入場無料)

【日時】11月6日(日)、11:00～11:30
 【出演】田中雅弘(チェロ)、長原幸太(ヴァイオリン)他
 【会場】交流スペース
 【定員】90名(要事前予約・申込先着順)
 ※メンバーズクラブ会員は9月19日(月・祝)、一般は10月1日(土)両日ともWEB9:00、電話10:00から申込受付開始
 【内容】弦楽アンサンブル

● ギャラリー・ツアー

(担当学芸員による特別展示作品解説)
 「蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展」

【日時】会期中の毎週日曜日 いずれも11:00～12:00
 ●10月 2日(日) やきもの ●10月 9日(日) 浮世絵
 ●10月 16日(日) やきもの ●10月 23日(日) 浮世絵
 ●10月 30日(日) やきもの ●11月 6日(日) 浮世絵
 ●11月 13日(日) やきもの
 ※11月6日はコンサートとの特別プログラムで実施
 【定員】各日浮世絵10名、やきもの20名(要事前予約・要観覧券)

◆ ギャラリー・トーク

(担当学芸員による展示作品解説)
 いずれも11:00～(30分程度)
 ◆11月26日(土) 浮世絵に見る影の表現-写実と幻想
 ◆12月10日(土) 華麗なる色絵磁器
 【定員】各日10名(要事前予約・要観覧券)

事前予約について

WEBまたは電話にてお申し込みください。

【WEBの場合】

右の2次元コードから、または、美術館ホームページをご覧ください。



【電話の場合】

TEL 0838-24-2400にて、①～④をお知らせください

①参加するイベント名 ②参加者の氏名 ③年齢

④代表者の日中の連絡先電話番号

⑤メンバーズクラブ会員番号(優先受付有の場合)

※申込受付は先着順です。

※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400

交通アクセス

【新山口駅から】

■直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩-明倫センター下車、徒歩約5分
 ■防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

■萩近鉄タクシー(乗合タクシー) 約70～80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

■JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
 ■JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
 ■JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

■「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 ■「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



最新情報は公式SNSで

